

岐阜女子大学

「デジタル・アーカイブ速報」No.41

岐阜女子大学 文化創造学部

〒501-2592 岐阜市太郎丸 80

フリーダイヤル 0120-661184

URL <http://www.gijodai.ac.jp/>

岐阜女子大学大学院 文化創造学研究所(事務局)

〒500-8813 岐阜市明德町 10 番地 杉山ビル 4F

TEL 058-212-3257 FAX 058-212-3258

URL <http://www.gijodai.jp/graduate/>

沖縄戦中・戦後の子どもの目線（視点）から見たオーラルヒストリー のデジタル・アーカイブ（1）

～仲本實氏の太平洋戦争に置ける体験を通して～

戦中・戦後の体験は、主として、大人の立場からの視点からの話が多く、当時の子どもがどのように受け止め、どのように考えたかをオーラルヒストリーとして構成された例は少ないです。このため、戦中・戦後に現在の小学生・中学生の年齢の方に、オーラルヒストリーとして、その体験のデジタル・アーカイブは歴史的証言として、また、生涯学習・学校教育での社会科・平和教育の教材として重要です。

現在（2010年）、当時の小学生の人々は70歳以上になられています。オーラルヒストリーのデジタル・アーカイブとして構成できる時間的な余裕はありません。この点、坂井先生もフィリピン等での戦後資料の収集等の活動体験から急ぐべきだとの指導もあります。

まず、2010年4月頃、仲本實先生に当時（戦中・戦後）の状況をオーラルヒストリーとしてお話をお願いしました。

仲本先生のオーラルヒストリー

その後、仲本先生には、2010年8月11日に沖縄教育カレッジのスタジオで、第1回のオーラルヒストリーの収録ができるように資料の準備をしていただきました。



岐阜女子大学（沖縄サテライト校）の学生、
院生等による撮影



資料を見せながらお話しして下さいました。

仲本先生、聞き手：稲福先生（沖縄女子短期
大学）、照屋さん、眞喜志さん（岐阜女子大学）

オーラルヒストリーの構成

仲本實先生のオーラルヒストリーの構成は、次のようです。

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1. 昭和13年～15年頃の生活 | 8. 家族は難民収容所へ |
| 2. 戦争近づく | 9. 山中での暮らし |
| 3. 最初の爆音 | 10. 米軍の態度がだんだん険悪に
なってきた |
| 4. 再び山田国民学校へ | 11. 石川収容所と終戦 |
| 5. 10月10日の空襲 | 12. 宮森小学校時代 |
| 6. 昭和20年上陸戦争の前触れ | 13. 浮浪者時代終わる |
| 7. 4月1日米軍上陸 | |

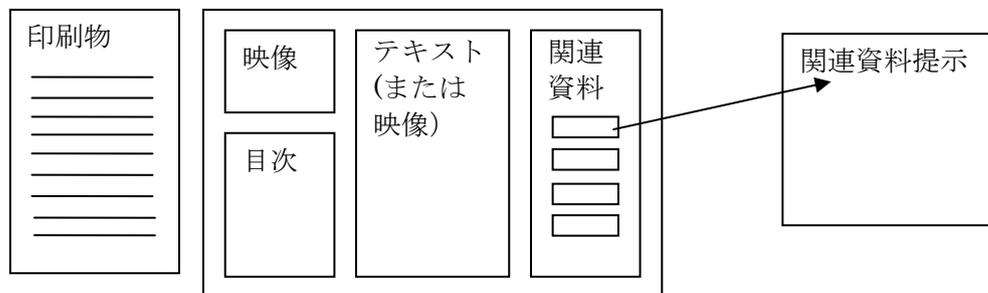
これらの目次に対応し、各章で資料のデジタル・アーカイブを構成しています。

デジタル・アーカイブの構成

デジタル・アーカイブの構成は、オーラルヒストリーの目次の各小項目で選択し、1つのフレームとして提示を可能にします。それぞれのフレームには、仲本實氏の話されている状況と話の内容の文書、映像、図等を提示する。さらに、話と関連する各種資料が必要に応じて取り出せるようにしました。

また、別に、オーラルヒストリーについての印刷物を作成し、電子プレゼンと印刷物の両特徴を有効に、利用できるように制作を進めています。

プレゼンの例



デジタル・アーカイブの構成は、図に示すように、印刷物をパソコンや電子書籍等を用いた提示を利用します。印刷物は、仲本先生が記述された内容を印刷物として提供します。

(今後は、テキストとして、利用者が記入できるようにして、目次と各提示とを対応させます。)

提示は、映像として、仲本先生が話されている様子が見られるようにしてあります。その下には、目次が表示され、そこをクリックすれば、該当するオーラルヒストリーが上の映像と右の文書（話されている内容）が提示されます。

さらに、話の中に出てくる場所(地名)、施設、自然環境(現状)などが、利用者の指示によって提示されるようになっています。

仲本先生の戦中・戦後のオーラルヒストリー 例



戦時中の沖縄 オーラルヒストリー

制 作: 琉球女子大学文化情報研究センター
著作権: 琉球女子大学

1. 昭和13年～15年頃の生活

(1) 旧大里村字字子川での生活 (00:00)

(2) 幼稚園の遊戯 (01:22)

(3) 久茂地小学校 (05:18)

(4) 山田小学校への転校 (09:50)

戦時中の沖縄 オーラルヒストリー

1. 昭和13年～15年頃の生活
(4) 山田小学校への転校

昭和14年4月山田小学校に転校。(二年生)山田には母の実家祝殿内があり母方の祖母、従兄の兄妹と暮らす。

山田の同級生は皆親切で、新入生の僕を喜んで受け入れてくれた。

学校から帰ると、馬・牛・山羊の草刈や畑仕事・田んぼ仕事を手伝ったりした。

都会育ちの僕ほどの仕事も下手であったが、従兄や同級生が何時も助けてくれた。

特に従兄の助けが大きかった。

【参考資料】

(4)山田小学校への転向



仲本直先生のご紹介



第一巻について



山田小学校 GPS情報



内容の一部または全部を複製、無断使用すること及び印刷物への無断転載・引用は固く禁じます。
Copyright©2010 Gū Women's University. All rights reserved.

関連資料













関連資料の収集と追加

関連資料は、今後、米国・沖縄公文書館を始め各分野での資料の利用また協力をお願いし、また、沖縄関係者による関連資料を追加し、より質の高いデジタル・アーカイブを構成します。

戦中・戦後のオーラルヒストリーの利用

このデジタル・アーカイブは、沖縄だけでなく、全国で利用できる戦中・戦後の人々の歴史的な証言・教材として重要であり、次のような利用を検討します。

- ①戦中・戦後の子どもの視点でのデジタル・アーカイブとして、後世に残す。
- ②社会科、歴史、平和の教育を始め、学校教育、生涯学習等広く利用できる資料。
- ③戦中・戦後史の行政でなく、人々の生活の観点から構成した歴史資料。

パソコンや i-Pad で施設内、家庭、学校等でも利用できるように

デジタル・アーカイブの特徴は、通信ネットワーク、電子媒体を用いて、情報を流通させ、家庭でも利用できることが重要です。このため、家庭、職場、学校、生涯学習等で広く利用できる機能性を検討し、その活用の推進を図る必要があります。

坂井先生のフィリピンの体験から

この沖縄のオーラルヒストリーのデジタル・アーカイブの構築は、坂井知志先生(常磐大学)の提案であり、先生は、フィリピンでの遺跡資料収集等のため地域の人々と交流され、現在、太平洋戦争当時の体験をされた人々の話をいそいで記録する必要性を話されていました。また、沖縄でも同様で、今、デジタル・アーカイブ化をしなければ、デジタル・アーカイブ構築は不可能で、ぜひオーラルヒストリーの記録保存をすべきだとの提案の話がありました。そこで今回、仲本先生にお願いし、その第一歩が動き出しました。

デジタル・アーキビストが今すべき！

戦中・戦後のオーラルヒストリーのデジタル・アーカイブ化

図書館、博物館、学校、地域の社会教育施設、NPO 等で活躍されているデジタル・アーキビストの方々に！

戦中・戦後の小学生もすでに 70 歳を越えて、子ども時代の視点で話ができる人材が少なくなってきました。これまで、大人の視点での戦中・戦後の話は多くありました。しかし、子どもの視点で「どのように受け止め、どう思ったか」を歴史的な証言として、また、次の世代の子ども達への教材は少ないのが現状です。

とくに、戦中・戦後の子ども達の視点で、「どう受け止め考えたか」その情報は、今後の同年代の子ども達にとって平和を考える大切な教材であります。

これらの情報を地域や学校、社会施設に残すために、今こそ、デジタル・アーキビストとしての能力のある方々が協力し、デジタル・アーカイブとして制作すべきだと思います。

